

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】 / (分野)		授業形式						
M314M102		解剖学実習 (Practice in Human Anatomy)					コース共通専門分野		対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態							
必修	1	1	医学部先進医療科学科	後期	月3,木2	日本語		複数(共同)							
担当教員	氏名 井上 亮、田仲和宏 E-mail ryo@oita-u.ac.jp 内線 5051														
授業の概要	本科目は、解剖学の知識を基盤に、人間の生命活動に関する知識体系の各論として、感覚器系・神経系・内分泌系の詳細、呼吸器系・消化器系・腎泌尿器系・筋骨格系・生殖器官系について、解剖体の見学実習を実施しながら学修を深める。本科目の受講を通して、生命の尊厳についての考えを深めるとともに、医療科学を学問的に探究していくための礎を築いていくこともねらいとしている。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	
目標1	外界や体内からの情報を中枢が処理し、指令を発することでコントロールされる生命活動の仕組みについて理解できる							○				○		○	
目標2	生命活動に必要な酸素を体内に取り込むための呼吸器系の仕組みについて説明できる							○				○		○	
目標3	生命活動に必要な栄養素を体内に取り込むための消化器系の仕組みについて説明できる							○				○		○	
目標4	生命活動で産生され、体内で不要になったものを体外へ廃棄するための腎泌尿器系の仕組みについて説明できる							○				○		○	
目標5	からだを支える骨格とそれを動かす筋肉の仕組みについて説明できる							○				○		○	
目標6	子孫を残すための生殖器官系の仕組みについて説明できる							○				○		○	
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度 (計10)								6				2		2	
授業の内容															
1 調節機構：神経性調節の仕組み															
2 調節機構：中枢神経（脳）の構造と機能															
3 調節機構：中枢神経（脊髄）の構造と機能															
4 調節機構：末梢神経（脳神経、脊髄神経）の構造と機能															
5 調節機構：液性調節の仕組み															
6 調節機構：内分泌器官の構造と機能															
7 呼吸器系：呼吸器系の構造の概要															
8 呼吸器系：換気のみニズム															
9 呼吸器系：ガス交換とガスの運搬															
10 呼吸器系：呼吸の調節															
11 消化器系：消化器の構造と機能の概要															
12 消化器系：咀嚼・嚥下のみニズム															
13 消化器系：食物の移送															
14 消化器系：消化吸収のみニズム、排便															
15 腎泌尿器系：腎泌尿器の構造と機能の概要、体液・血圧の調節															
16 腎泌尿器系：尿の生成と排尿															
17 筋骨格系：筋・骨格の概要															
18 筋骨格系：筋収縮のみニズム															
19 生殖器官系：生殖器官の構造と機能の概要、女性の性周期															
20 解剖実習見学（集中）															
21 解剖実習見学（集中）															
22 解剖実習見学（集中）															
23 解剖実習見学（集中）															
24															
25															
26															
27															
28															
29															
30															
ラーニング	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造		☐ 日々の課題学修、単元毎の小テスト、ポートフォリオ作成 ☐ 発問、バズセッション、学修ループリックによるピアビュー ☐ Medical Focusを用いた知識の医療への応用、課題レポート ☐ ケーススタディを用いた調べ学修		工夫その他の		LMS、動画 *Moodleを活用								

授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	配布授業資料・教科書の確認・動画視聴（毎回1h:計23h）、日々の課題の調べ学修（毎回0.5h：計11.5h）											
	事後学修	授業内容を整理しポートフォリオとしてまとめる（毎回1h:計23h）、単元ごとの小テストの見直し（計5h）											
	想定時間合計	63											
教科書	①坂井建雄、岡田隆夫、宇賀貴紀編著（2022）：解剖生理学 第11版、医学書院 ②Martini,F. et al. 著、井上貴央監訳（2012）：カラー人体解剖学一構造と機能：ミクロからマクロまで、西村書店												
参考書	①清村紀子他編（2014）：機能障害からみたからだのメカニズム、医学書院 *授業展開が網羅されている ②その他は開講時に提示												
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10	
	学期末試験	80%	○	○	○	○	○	○					
	課題レポート	20%	○	○	○	○	○	○					
注意事項	・Moodleに一括配信した講義資料・教科書を用いて必ず予習し、主体的・積極的に授業に臨むことを期待する。 ・人体解剖見学実習には必ず参加すること。時期については開講後に知らせる。												
備考													
リンク													
	URL												
担当教員の 実務経験の○ 有無													
教員の実務 経験	井上（医師） 田仲（医師）												
実務経験を いかした教 育内容	臨床現場で活かせるヒトのからだの構造と機能に関する知識を具体的に解説する。												